

「地震被災建築物応急危険度判定模擬訓練講習会」の開催

山口県建築指導課

去る令和7年2月6日（木）に開催しました「地震被災建築物応急危険度判定模擬訓練講習会」について報告します。

■主催

山口県、山口市、（一社）山口県建築士会

■開催日時・場所

令和7年2月6日（木）10時～16時
二島地域交流センター
旧二島幼稚園

■参加者

県内の応急危険度判定士20名が参加

■プログラム

1. 応急危険度判定制度について（午前の部）
 - (1) 判定方法について
 - (2) 参集方法等について
 - (3) 演習問題
2. 応急危険度判定の模擬訓練（午後の部）
 - (1) 判定支援ツールの使用方法
 - (2) 情報伝達訓練
 - (3) 判定訓練
 - (4) 判定結果の整理と集計
 - (5) 判定の解答例と解説

●講習会の概要

今回の模擬訓練講習会は、令和元年度以来、5年ぶりの開催であり、今年も、山口県内の主要な活断層である「大原湖断層系（宇部東部断層＋下郷断層）」が通る山口市での開催です。

◇座学講習

午前の座学講習では、応急危険度判定制度の復習や判定方法の再確認を中心に、実際の判定活動における参集の流れや、判定士が怪我をした場合の補償制度などについて説明しました。なお、講習や訓練の運営は判定実施本部となる市町が中心になって行っており、判定士だけでなく、実施主体である行政側の訓練も目的としています。



◀ 判定ステッカー
余震による倒壊の危険度を判定し、3色のステッカーを貼っていく。



▲ 座学講習の様子

◇判定支援ツール

今回、本県では初めて判定支援ツールを使用した訓練を試験的に行いました。判定支援ツールとは、被災建築物の現地調査を効率的かつ迅速に実施するための携帯型情報端末機器で操作するシステムのことです。専用のアプリをインストールすれば、スマートフォンやタブレット上で調査票の入力ができ、調査結果が自動で判定されるなど、判定作業の効率化が期待されます。

なお、今回は国立研究開発法人建築研究所様に協力いただき、使用方法について御講義いただきました。



▲ 講義の様子

◇情報伝達訓練

午後からの訓練では、まず、判定士2名で構成されるチームが5チーム集まって一つの班を作り、各班に班長、副班長が任命されました。

その後、判定に必要な情報の伝達及び資機

材の支給が、判定実施本部の判定コーディネーターから各班長、副班長に行われ、各判定士には班長、副班長から指示がなされました。



▲ 判定活動に使用する資機材

机上：左上から、貼付用テープ、筆記用具、判定調査表、チラシ、バインダー、電卓、クラックスケール、打診棒、ヘルメット用シール、判定ステッカー、腕章、下げ振り

机下（左）：リュックサック

※他にもコンボックスやヘルメットは必須です。

◇判定訓練

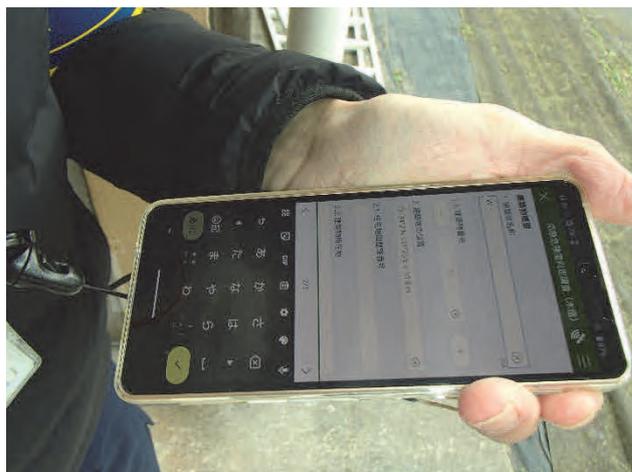
判定訓練では、旧二島幼稚園の建物を使ってS造及び木造、二島地域交流センターの建物を使ってRC造の判定を行いました。S造、木造、RC造の構造毎に判定方法が異なるため、3種類の建物を判定のモデルとして選定し、段ボール等を使って、地震による構造部材の損傷や落下・倒壊危険物等を表現しています。

判定士は、その被災状況を調査しながら、「調査済・要注意・危険」の判定を行います。調査中に地域住民や建物所有者に扮した職員から質問されたり、余震が発生した想定で一時退避を行うなど、より実践に近い訓練を行いました。



▲ 木造の判定訓練の様子

下げ振りをを使って、段ボールで作った柱の傾きを測定しています。



▲ 実際に判定支援ツールを使用しています。

◇VR体験

休憩時間に、判定士の皆様に災害体験 VR を体験してもらいました。これは、県防災危機管理課にて貸出を行っているもので、VR ゴーグルにより、自然災害の恐ろしさを、実際にその場にいるような感覚で体験することができます。



▲ 地震の映像も流れるため、臨場感のある訓練になった。

●おわりに

応急危険度判定は、大地震発生後の余震による建物の倒壊等の二次災害から周辺住民の命を守る上で、大変重要な活動です。また、建築士の社会的貢献の場としても、意味のある活動と言えます。

山口県と建築士会では、いつ来るか分からない大地震に備え、判定士養成講習会や模擬訓練講習会を実施しています。

講習会の開催時期が決まり次第、この山口建築士の誌面に開催案内を掲載しますので、ぜひ受講をお願いします。